



# 産業の常識

副業の常識 (三)  
東農大出身 鈴木技師

構造、暖房の中の煉炭は下方側面の排気孔の閉閉戸によつて燃焼を左右され煉炭受の金網と多数の孔ある蓋の煉炭火鉢によつて温度は上方に高昇するも上面の蓋よりはぬけ出る場所がないから側面をぬけて再び下降し下方の廣場に入り一巡して煙突の方面に突進して室外に放散する様になつてゐるのである

煉炭の入替は上部の蓋を取つて煉炭火鉢を取り出し然る後に點火した煉炭を入れて再び元の場所をさめるもので此の煉炭火鉢は二個用意してあれば入替の時に温度の下降を防ぐことが出来るものである又周囲を巡ぐる湯槽は水蒸気を發散させて器内の乾燥を防ぐのである傘の形には種々あるが要は温源部を中心にして上方から吊り上げるか又は足付を利用してよい

室内の設備、傘形有難器は器内の温度と温度が余り差があると面白くない特に開放的な(傘の小さなもの或は傘が高い場所にあるものなどは)ものでは外部の温度は八十度位なければならぬ故に室内の保温設備は充分にすることが必要で其れには縦横同じ長さの四角な空で天井の高さは五尺で結構である、若し天井がなければ遮か窓を張り壁も二重にすれば好都合である又難は明るい所に集まるから採光は平均に入る様に作り土間には約二寸の厚さに砂を敷く

其れが出来なければ傘形設置の場所だけ直径九尺位に盛り上げて据付の準備をするのである



油問屋 關内油店  
支店 磐城平 電話長16、460  
支店 郡山市駅前通 電話長八二三  
支店 茨城縣關本驛前 電話長平湯七三  
支店 油槽出張所 平町四丁目 郵便局前

ガソリン モビール油 日本株式会社 石油株式会社 特約販賣

支店 郡山市駅前通 電話長八二三  
支店 茨城縣關本驛前 電話長平湯七三  
支店 油槽出張所 平町四丁目 郵便局前

難波醫院  
内科一般  
醫學博士 難波 睦  
平町大町新川端 電話五〇一五

お醤油は ヤマフル  
醤油 味噌 たひら正宗 鯉節食料品  
明治生命 代理店 山崎與三郎

藤田女學校入學案内  
一、本 科 五十名  
二、裁縫專修科 百 名  
三、師範科 三十名  
四、專 攻 科 二十名  
五、本科裁縫專修科(補充)若干名  
六、選 科 若干名  
右希望者は至急願書提出のこと  
詳細は本校宛學則請求せらるべし  
昭和八年三月 福島縣平町 藤田女學校 認 文部大臣 藤田女學校 電話三二八番

食器設備 お好みの設計  
御用命直ちに專屬の技術員を差遣し破格的の勉強でお調へ致します  
本丸ぽん家具店  
平町三丁目 電話三五九番

外科 内臓外科 醫學士 内木宗八  
整形外科 外科一般  
産科 婦人科 院長 木村寅次郎  
平町新川町一九 電話一六四番 木村病院

山崎合名會社  
鹽屋 ヤマフル  
電話 本 店 二七〇番 支 店 一〇七番  
代理店 山崎與三郎

ケン石ニカク  
生命と信用を賭して精選せる純良の... 質と... 量最後の一片が消え去る迄優雅な香が續く  
お化粧用 一ヶ 十錢  
お洗濯用 壹打 壹圓二十錢  
壹打 壹圓  
つるや  
平町 4 電 140

煙突は 朝日  
石綿セメント製  
朝日煙突  
煙突は 朝日  
石綿セメント製  
朝日煙突  
煙突は 朝日  
石綿セメント製  
朝日煙突

クスリの調合 平町五丁目角  
化粧品 山野邊藥局  
體溫計  
郷土生藥の研究  
和漢藥療法の研究  
顧問 藥學博士 柳澤秀吉先生指導  
東華皇漢藥研究所  
主任 藥劑士 山野邊東次郎

高久病院  
平町田町 電話五三三番  
院長 醫學士 高久 忠

高島屋洋服店  
模範裁縫  
洋服の御用命は 高島屋へ  
平町驛前 電話三八六番



共濟病院案内  
院長 醫學博士 石山謙郎  
自宅 電話二二四番

内科 小兒科 醫學博士 石山謙郎  
小兒科 醫學士 佐久間 粹  
外科 耳鼻咽喉科 醫學士 桂 重次  
喉科 皮膚科 醫學士 有馬 勇二  
産婦人科 醫學士 五十嵐 雄二  
X光線科 醫學博士 佐久間 粹  
衛生試驗所 醫學博士 石山謙郎  
技師 高後利雄  
藥局 藥劑士 吉本幸平  
診療時刻午前八時より午後五時迄  
但急患はこの限りに非ず  
平町 磐城共濟會  
電話 六四二番

債券 公債 兩替 金融  
多々井質店  
平町大工町 電話五九二番